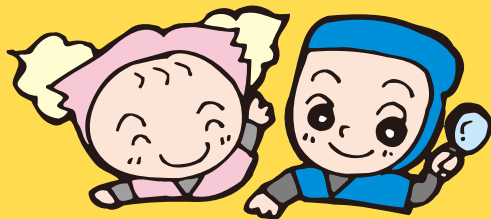


さがしてみよう 12のチェックポイント!



1 山内一豊の銅像
天文14年(1545年)尾張(今の愛知県)生まれ。豊臣秀吉に仕え、のち、関ヶ原の合戦で功績を上げ、土佐24万石の初代藩主となって、高知城を築きました。



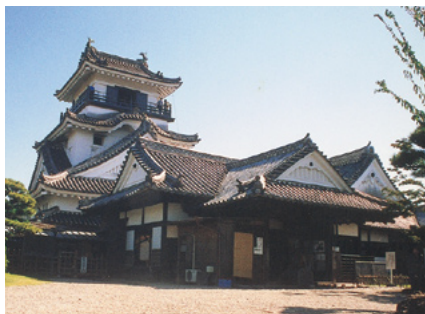
2 追手門
高知城の表門で最初大御門と呼ばれていましたが、今では追手門と呼ばれています。昔は農民や商人などは入ることができませんでした。2階部分にはめずらしい「石落とし」の「しかけ」があります。



3 石垣の刻印
追手門の外の大きな石には「ウ」「エ」「ケ」「シ」の文字が刻まれています。そのほかにも左のような文字もあります。さがしてみよう。



4 板垣退助(上士)の銅像
家は代々山内家の家臣でした。退助は今から160年程前に生まれ(坂本龍馬より2歳年下)、明治維新では幕府を倒して、新しい日本をつくるために活躍しました。その後、自由民権運動のリーダーとして、日本で最初に民主主義を唱え、その活動中に暴漢におそわれました。その時、「板垣死すとも自由は死せず」の名言を残しました。居合道が上手で相撲も好きでした。



12 本丸と天守閣
天守閣は3層6階、内部はすべて昔のままだに残されています。本丸御殿・東西の多聞と廊下門・黒鉄門など、本丸の全部の建物が完全に残っているのは、全国で高知城だけ。藩主が対面する正殿上段の間の左には、「武者隠し」も備えられています。玄関右手前には日時計もあります。



1 黒鉄門
本丸の裏門で、柱、門、扉などには小鉄板が打ちつけられ、黒く塗られているのでこう呼ばれています。ふだんは閉められており、非常時だけ開けたそうです。



10 詰門(筋違いの門)
2階には本丸を守る侍の詰所がありました。本丸への道をまちがわせる門。また入口と出口が筋違いになっていて、通り抜けができません。



9 石落とし、しのび返し
敵が攻めてきたら石を落とし攻撃します。また敵が石垣をよじ登っても、しのび返しがあるのでお城に攻め入ることはできません。



8 弾や矢に強く厳重に造られた鉄門の跡
追手門の1/2位の大きさの二階造りの門で、扉には鉄板が隙間なく打ちつけられていたので鉄門と呼ばれていました。



7 南海大地震にも耐えた石垣
近江(今の滋賀県)の石垣造りの専門家、穴太衆たちによって、ほとんどの石垣が山の自然石を使って「野ヅラ積み」という方法で造られました。



5 石樋
高知は日本でも特に雨がが多いところで、お城の排水が石垣にあたらないよう石樋をつくっています。またお城全体の雨水は3方向に「らせん状」に平均して排水されるくふうもされています。



6 一豊の妻の銅像
17歳の頃一豊と結婚しましたが、その時持ってきた10両の大金を出して名馬を買わせ、「馬揃え」という儀式で織田信長の目にとまって、一豊の出世のもとになった有名な話があります。夫人は書写にもすぐれ、手芸も上手でした。

